

## <教育課題演習の各クラスの授業概要および履修上限人数>

履修希望者が上限人数を越えた場合は抽選により履修者を決定します。

### 1. 児童文学から読む、家族と子どもの現代 【大島 丈志 先生】 上限 45 人

現代の児童文学作品（絵本を含む）を読み、その内容を考察し、プレゼンテーションすることから学んでいきます。

児童文学は、子どもや家族のおかれている状況を映し出す「鏡」という性質を持ちます。児童文学を学ぶことは、現代の子どもと家族の状況を知り、学ぶことにつながります。描かれた歴史・文化に関する調査も行い、歴史・文化と関連させながら児童文学作品を読むことで、現代の子どもと教育・家族をめぐる問題について考えてもらいます。

### 2. 論理的文書作成技能を身に付けよう 【白石 和夫 先生】 上限 40 人

知識基盤社会は、型を破る創造的思考を求めています。創造的思考に不可欠な論理的思考力の育成が大きな教育課題です。この授業では、論理的文書作成技能の習得を通して論理的思考力を身に付けることを目指します。

数学では、定義を満たすことを確かめる作業が必須です。そのうち、決まりきった手順で実現できることを、「自明」といいます。英語では“trivial”です。馬鹿正直に定義と照らし合わせていけばいいだけのことなのですが、初学者には案外むずかしい作業です。

この授業では、論理の基本法則を学び、集合や写像に関する諸命題の証明を書くことを通して、自立思考を確立するために必須となる論理的文書作成技能の習得を目指します。なお、集合や写像に関する予備知識を、一切、仮定しません。議論に必要な定義はすべて授業内で与えます。また、題材は、論理の使い方の初歩を学ぶのに適するものに限定します。

### 3. 芸術教育の充実のために 【峯村 操 先生】 上限 30 人

芸術に関する教科・教育は、ともすれば軽視されがちな傾向にあるが、正解・最適解のないこの分野こそ、とりわけ「心の教育」には必要なものと考えます。

本講座では 15 回を前・後半に分け、2 度の個人発表を課する。

① 音楽（クラシック、ジャズなど）に関する専門書を読み、内容を要約して発表する。

真の芸術は細かい理論と深い思索に裏打ちされたものであることを実感してほしい。

② 一本の映画作品を多角的に鑑賞し、その内容を分かりやすくプレゼンテーションする。映画を単なる娯楽としてでなく、作品として「読む」ことを体験してほしい。

#### 4. スポーツは本当に「大切なもの」なの？：スポーツを「クリティカル・シンキング」 する 【佐藤 正伸 先生】 上限 50 人

このクラスは、1年次の基礎演習で学んだクリティカル・シンキングの力を高めることを目的とします。「批判的思考」と訳されるこの力は、「否定や反論をする力」でなく、「(対象について)より良い、より正しい方向を考察する力」であることを学びました。

ところで、「スポーツは身体に良い」と言われますが、本当にそうでしょうか。「スポーツの身体への害」はたくさんあります。「身体へ」どころか「心へ」の害もあります。では、「スポーツは悪いもの」でしょうか。もちろん、そうとも言えません。そもそも、全ての社会事象には「功罪」あるいは「明暗」があります。そして、社会の発展には、事象の「功／明」を伸ばし、「罪／暗」を減らす必要があります。そのためには個々の市民がそれらを見極める力、すなわちクリティカル・シンキングの力を備えることが必要です。社会の未来を拓くことのできる市民を目指し、体育やスポーツを題材にクリティカル・シンキングの力を磨いてみましょう。

もちろん、「体育やスポーツが好き／得意」である必要はありません。大局的かつ対極的な議論をして欲しく、そのため「体育やスポーツが嫌い／苦手」な人も歓迎です。なお、体育やスポーツ以外の社会事象に注目してみたい場合はそれも許容します。

#### 5. 課題発見力をつけるために、五感を使って生活を見つめよう

##### 【土肥 麻佐子 先生】 上限 30 人

現在の教育課題として、他者の感性や価値感の多様性を理解して、ウェルビーイングを目指す主体的な態度の育成が求められています。本授業では五感を研ぎ澄まして自分の生活を観察して価値を見出し、他の人にわかるように表現する力、他の人の価値に耳を傾ける力、他の人の多様な価値観を理解した上で生活の中にある課題のポジティブな解決方法を提案する力を養うことを目的とします。授業方法は、五感の働きを生理的・心理的側面から解説する講義と演習を併用した形式とし、ICTを活用して発表とディスカッションを繰り返すことにより内容を深めていきたいと考えています。

#### 6. 子どもと学校が直面する困難と課題 【加藤 理 先生】 上限 60 人

この時間は、学力とは何か、いじめや不登校、子どもの貧困、自己肯定感、命の教育、道徳教育の可能性など、現在の学校教育が直面しているさまざまな課題について考えていくための基本的な知識の整理、研究方法の確認、研究の手順の実践を行っていきます。

グループワークを基本として進めていきます。毎回、グループ内でのさまざまな分担

を決めながら作業を進め、調べたことを持ち寄って意見交換、討論を行い、新たな知見を得たり認識を深めたりしてもらいます。受講希望の方は、積極的に授業に参加することで充実した時間にしてください。

今年度は、15回を前半7回と後半7回に分け、2つのテーマについて考えていきます。扱うテーマは次のものを予定しています。

前半…主体性を育む教育と自己肯定感

後半…いじめ問題の現状と克服の可能性

## 7. 教育課題を学び解決のために動こう 【千葉 聡子 先生】 上限60人

みなさんの現在の教育課題についての認識は、大学の授業等を通して高まっていると考えます。しかし課題を理解するので終わるのではなく、その課題に対して何かできるのかを、さらに私たちは考える必要があるのではないのでしょうか。授業では課題に対して、現在の私たちに考えられることを形にしていくことを目指します。

授業ではグループに分かれ、前半ではそれぞれのグループで教育課題についての理解をさらに深めるための論文等を読み、理解した内容をクラス全体に対して発表します。授業の後半ではワークショップを通して、課題解決のための組織的活動を作り出す試みを行います。作り出した活動内容についてクラス全体に対して発表し、クラスからの意見をもとにさらにその活動をブラッシュアップしていきます。

実際に現実の活動することは難しいかもしれませんが、外側から課題を見つめるところから一歩踏み込んで、課題に対してアプローチする試みを行っていきたいと思います。